

「新しい日本の ODA」を語る会 の開催について

1 背景

政府系金融機関の再編に端を発したとはいえ、昨年末から政府、与党等において ODA の実施体制について抜本的見直しの議論がなされ、内閣の司令塔機能の強化のために「海外経済協力会議」の設置や JBIC（旧 OECF）と JICA との統合等が決定されるなど、日本の ODA の歴史においても、かつてない大きな変革期に直面している。

また 2008 年には、上記 JICA と JBIC の統合（世銀の次のビッグドナーになる）の他に、東京でのサミット開催、TICAD（アフリカ開発会議）開催等が予定されており、国内的にも国際的にも「新しい日本の ODA」を構築し、発信していくチャンスである。

2006 年 2 月 28 日に最終報告書が出された「海外経済協力に関する検討会」（官房長官の諮問機関）では、政策金融機関の取り扱いに議論が集中したこともあり、ODA の基本戦略や方向性についての議論はなく、また実施体制、運営方法等についても、詳細な検討が行われたとは言い難い状況にある。

今後、「海外経済協力会議」の開催（5 月 8 日に第一回会議が開催）、外務省等の関係省庁の組織改革（2006 年夏）、新 JICA 法の制定（2006 年秋の臨時国会）等が予定されているが、今まさに「新しい日本の ODA」の骨格が決定される過程に、ODA に関係する幅広い有識者の意見を反映していく必要がある。

2 目的

日本の ODA の変革にあたって、3 つの視点（国際的な視点、国民の視点、援助現場の視点）から、日本の ODA の問題は何か、より効果的・効率的に行うには今なにを改善すべきか等について、ざっくばらんな意見交換を行う。政界、マスコミ、NGO、産業界、学界、官界、援助実施機関等の人間がお互いの持っている問題意識や情報を交換し、政策立案や ODA 改革の具体化につながるきっかけ作りが期待される。

テーマは、以下のとおり、ODA 実施体制・実施方法等に関するものから、ODA の

基本戦略や長期的な政策等まで幅広く対象とするが、その都度ホットな 이슈を優先的に取り上げて議論することとする。

(トピック例)

- ・ 国別アプローチの強化のための方策
- ・ 無償資金協力の効果的实施方法
- ・ 調査研究能力の抜本的強化策
- ・ 「新しい日本の ODA」の基本戦略
- ・ アフリカ支援戦略、等々

3 参加者

政界、マスコミ、NGO、学界、産業界、官界、実施機関の有志（個人資格での参加とする）

4 運営方法

(1) 日時：1回/月程度 1時間半程度

(2) 場所：GRIPS

(3) 進行：話題提供(30分) + 自由な意見交換(60分)

(4) 記録：概要を GRIPS の HP で掲載

http://www.grips.ac.jp/forum/oda_salon/index.htm

5 幹事(事務局)

大野 泉 政策研究大学院大学

小嶋 雅彦 同上

以上